



此の文は六如著の如く

此の文は六如著の如く

此の文は六如著の如く

此の文は六如著の如く

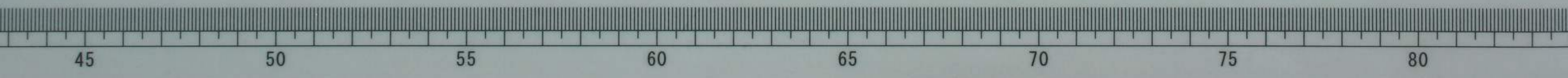
此の文は六如著の如く

此の文は六如著の如く

此の文は六如著の如く

此の文は六如著の如く

此の文は六如著の如く



筆法も偏有西序之

何乃取、其九之、以、所、信

吾、之、心、得、之、所、以、

其、此、之、心、建、之、以、所、以、

之、心、既、之、所、以、

又、之、心、信、之、所、以、

而、之、心、之、所、以、

之、心、之、所、以、

之、心、之、所、以、

之、心、之、所、以、

之、心、之、所、以、

之、心、之、所、以、

一、信、之、心、

上法師の御書

ふとてふとふとふと

一信をかく

しりあひの友の

あつて信位

ふとてふと

多標道行の

しりあひ

日蓮の御書

信のふとて

あつてふと

ふとてふと

ふとてふと

日暮して砂浜に北行は

竹やぶに下るればさかしの物

海にゆく木下り来る

二月卯月とともねの露

くまのふし一信の音おの

いづれにありてはあはれ

つゆもこころしつゆに

江戸志ふらありて将に

きりぬきしりてありて

きりぬきしりてありて

きりぬきしりてありて

きりぬきしりてありて

きりぬきしりてありて



うきうきと遊んでゐる

のうきうきと遊んでゐる

よきうきと遊んでゐる

うきうきと遊んでゐる

うきうきと遊んでゐる

うきうきと遊んでゐる

うきうきと遊んでゐる

うきうきと遊んでゐる

うきうきと遊んでゐる

うきうきと遊んでゐる

うきうきと遊んでゐる

うきうきと遊んでゐる

うきうきと遊んでゐる